グアナファト日本人学校における国際理解教育の実践

前グアナファト日本人学校教諭
神奈川県川崎市立宮前平中学校教諭　比留川　孝子

キーワード：国際交流

赴任校の概要（2021 年 7 月現在）

学校名・日本語：グアナファト日本人学校

学校名・現地表記：Instituto Educativo Japonés de Guanajuato, A.C.

URL：https://gtojschool.jimdofree.com/

１.はじめに

両親の仕事の事情で海外に住み、現地の言語・文化を学ばなければいけない子どもはたくさんいる。私が配属になったイラプアト（メキシコ）でもそのような状況の子どもの数は増加の傾向であった。教員からの目線で、生徒たちは異文化理解をどのように進めているのか興味を持った。そこで、現地校と日本人学校の間でのディスカッション、さらに、世界中の日本人学校とのディスカッションに参加した。ここに、その概要を紹介したい。

２．国際交流が起案された

(1)AG5 の存在

AG5 という世界中の補習校をつなぎ、情報交換会によって様々な角度から学校運営の向上を目指す組織の紹介で、「SDGｓ（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals：以下 SDGs）を考える」という内容の国際交流を紹介された。結果的にこの交流会へは、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの日本人学校・補習校約 40 校が参加した。

(2)交流会の流れ

まず、この交流会への参加を考えていた教員で SDGｓについての勉強をし、どのような発表にしていくかを検討した。結果、11 月にパワーポイントで各生徒の発表作品をロイロノート(ロイロノート・スクール)上に提出し、12 月に世界中の補習校・日本人学校、さらに、日本の学校の生徒が調べた SDGｓについて発表すると決定した。発表の手段は Zoom（Zoom Video Communications）で、ホストは蘇州日本人学校（中国）となった（資料１）。様々な国に移住する生徒たちが、それぞれの国で感じる SDGｓ問題を追求するということで、興味深い発表になるのでは、と期待が膨らんだ。

３．グアナファト日本人学校独自の取り組み

グアナファト日本人学校で現地のメキシコ人の意見も聞かず、メキシコが抱える問題を日本人だけで話し合うということは、偏った意見になってしまうと考え、本校では、まず、現地校との間で意見交換会を実施することにした。そこで、現地校（アレキサンダーベイン校）校長に意見交換会を実施したい旨を伝えたところ快諾いただき、さらに、現地校でも SDGｓについての発表をしたいと積極的な協力をいただいた。

4.　アレキサンダーベイン校との意見交換会

(1)意見交換会の流れ

現地校との話し合いでは、メキシコが抱える問題点について話し合った。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの状況下だったため、交流会は全て Zoom で実施し本校からは 4 人、先方からは約 30 人の生徒が参加した。

まず、アイスブレーキングで緊張をほぐし、次にSDGｓの17のゴールを大きく4種類に分け、ブレイクアウトルーム機能を使用して生徒自身が興味を持つカテゴリーの部屋へ行けるようにした。

4つのカテゴリーとは、

1. 貧困、健康
2. 平等、平和、パートナーシップ
3. 環境、社会
4. エネルギー、経済、工業

各ルームでは、日本人学校の生徒が司会を行い、意見が出やすい質問を事前に用意し、それを投げかけ、一人ひとりに意見を言うように促した。メキシコはスペイン語が母語であるが、アレキサンダーベイン校の中学生の英語レベルは高く、日本人学校の生徒より長けていた。しかし、語学が苦手な生徒もいたので、スペイン語教師、英語教師が各ルームを巡回し、サポートするようにした。各ルームでの話し合いの後、それぞれのルーム代表が話し合ったメキシコの現状、抱える問題について発表した。

(2)意見交換会の後の流れ

たくさんの意見を聞いた後、生徒たちが追求し、解決したいSDGｓを選び、12月に選んだ課題について、調べたこと、自分たちが問題解決のために起こせるアクションなどを発表する予定を立てた。つまり、グアナファト日本人学校は世界中の補習校・日本人学校との発表会

（日本語）と現地校との発表会（英語）の2つの発表会を行うことになった。

５．グアナファト日本人学校のSDGｓの調べ学習

(1)発表形式の統一

全ての参加校で探究活動、発表パワーポイントの形式をそろえた。その理由は、40校からなる12月の発表において比較しやすいように、また、具体的な流れが決まっていた方が作成しやすいため、などであった（資料2）。

(2)メキシコの教育の質の向上

①メキシコでの教育の地域格差

グアナファト日本人学校ではメキシコのSDGｓの1つとして、「教育の質の向上」を選んだ。アレキサンダーベイン校の生徒の意見で「教育の地域格差」があった。さらに日本人学校の生徒は日本人学校に来る前は現地校（私立）に通った経験がある生徒がいる。また、昨年のグアナファト日本人学校と現地校（公立）との交流会で、メキシコの学校の私立と公立との格差の大きさに驚いていた。これらの理由から、メキシコの公立学校は極端に、設備、教員の質が違うということに注目した。

②メキシコ政府が問題解決のためにしていること

メキシコ政府は教育の地域格差を小さくするために、

1. 奨学金制度　義務教育（中学まで無料）
2. 教員のトレーニング制度
3. 僻地の生徒へ遠隔授業、移動労働者への初等教育提供、などを実施していた。

③メキシコ政府の取り組みが足りないところ

1:教師の問題：教師の遅刻が見られ、教師のトレーニング制度が効果を出しているとは思えない。

2:日本と比べてわかった問題：平均学力がやや低く、中退者もやや多め。基礎教育の拡充や教科書改訂などが効果を出しているように見えない。

3:学力格差問題：遠隔授業やバイリンガル教育など質の良い教育を広く提供する制度があるが、結果が出ていないのではないか。

④課題・問題を解決するためのアイディア

1. 生徒自身の勉強へのモチベーションをあげる（ポスターなどで呼びかけ）。

2. メキシコ人は政府に「教育の平等」を訴え続けているが、政府はそれに応えていない。引き続き訴えるために、アンケート・ポスターを利用し国民の士気を高める。

(3) メキシコのごみ（リサイクル）の問題

(2) のメキシコの教育問題と同じ流れで、SDGｓとして、ごみの問題についても探求した。

6. 世界発表

(1) 時差の問題

時差を考えて、数か所で SDGｓの発表大会が開催された。北米大会、ヨーロッパ大会、そして中国を中心にしたアジア大会（資料１）が開かれ、時差が大きく、発表を断念した学校はビデオ提出で参加した。ロイロノート（ロイロノート・スクール）に発表作品を張り付け、ネット上で生徒が作成したパワーポイントを見ることができるようにした。ビデオ提出部門を盛り上げるために、全参加校の全生徒が必ずいくつかの発表作品をみて、感想を作成者へ送信するようにした。また、日本ユニセフの方々もコメントをするようにお願いした。

(2) 発表当日

小学生から高校生まで、質の高い発表ができていた。パワーポイントの使い方、高いスピーチ力などを見ると、この発表のために生徒は練習を積んできたと思われる。また、多くの先生、ユニセフの方々の参加を促し、生徒が目標とすることができる立派な発表会になった。

(3) 文集の作成

発表作品を要約したものを１つにまとめ、文集のようなものをネット上に作成した。

新型コロナウイルス感染症の状況下で孤独に勉強を進める子どもたちが、SDGｓの話し合いで 1 つになった瞬間だった。

7. 現地校（アレキサンダーベイン校）との発表

(1) 英語での指導

世界大会で使用したパワーポイントを英語版に作り替えた。さらに、それの発表練習をした。

(2) 日本人学校の生徒が主導

発表当日の司会者日本人学校で行い、お互いの発表を聞いた後、意見を交換する流れを繰り返した。厳粛な雰囲気だったためか、活発な意見交換は見られなかった。ブレイクアウトルームを使うべきだった。

(3) 2 校の違い

アレキサンダーベイン校の発表内容は深く、たくさんの情報量と主張が含まれていた。そこから、自国の未来を真剣に考える姿が見られた。一方、日本人学校の発表は、教員の指導によりパワーポイントの作成は上手だったが、意見の量と深さを言えば簡素なもので、そこには「私たちにできることは少ない」という姿勢が出ているように思えた。

8. この取り組みから学んだこと

(1) 頻繁に実施すべき

異国異文化交流するために、語学、社会の勉強の必然性が出てくる。アレキサンダーベイン校との英語のレベルの差は歴然だった。発表後の生徒には、どこの国の生徒とも対等に話し合い活動をするために英語の力を付けたいという語学習得のモチベーションが出てくる。また、自分の意見を持つために背景を勉強しなくてはいけな

い。社会の勉強へ関心・意欲がわくはずである。受験以外で、勉強へのモチベーションを上げるために、異国の学校との間の発表会を繰り返すべきである。

(2) 日本の学校とつなぐべき

日本国内の中学校で、国際交流を希望する教師は多い。しかし、相手校を探す手段がなく、踏み出せないでいる。日本人学校は積極的に国際交流の機会を広げ、海外に行く機会がない生徒の国際人化に貢献すべきだ。

(3) 現地の文化を理解するべき

グアナファト日本人学校の生徒は、メキシコ人またはメキシコの現地学校に良い印象を持っていない生徒が多い。「メキシコ人は時間を守らない」など、理解しづらい面があることは確かであるが、それ以外に、日本人が持っていない素晴らしい面をメキシコ人はたくさん持っている。それらを時間をかけて理解するためにも、頻繁に国際交流を行うべきだと思った。

資料１

第２回　世界へ発信！！私たちがつくる持続可能な世界～ＳＤＧｓ発表会～要項【決定版】

2020/12/13

１　目　的　　児童生徒が持続可能な社会を実現するために，自分自身に何ができるか考えることを通して，社会参画するための手がかりをつかみ，発表会を通して，よりよい社会の形成に向けた意欲や態度を身に付ける。

２　主　催　　蘇州日本人学校中学部　ニュルンベルク日本語補習授業校

３　協　力　　公益財団法人日本ユニセフ協会，公益財団法人海外子女教育財団

４　期　日　　令和２年１２月１６日(水)　中国時間９時４５分～１１時３５分（２時間扱い）

５　会　場　　蘇州日本人学校他（オンライン授業）

６　参加校　　蘇州日本人学校，大連日本人学校，青島日本人学校，上海日本人学校（虹橋校），
杭州日本人学校，広州日本人学校，マニラ日本人学校，静岡県袋井市立袋井中学校
長崎精道小中学校，愛知県津島市立東小学校
ビデオ参加　ニュルンベルク日本語補習授業校，イスタンブール日本語補習授業校，
ワシントン日本語補習授業校，フィラデルフィア日本語補習授業校，
ロチェスター日本語補習授業校，ダラス日本語補習授業校
ジュネーブ日本語補習学校，グアナファト日本人学校
見学校　ジャカルタ日本人学校，シンガポール日本人学校チャンギ校，クレメンティ校
サンホセ日本人学校，宮城県大河原中学校，仙台市教育委員会，浜松市教育委員会

７　内　容　　持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは，2015 年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標である。この目標の達成に向けて，各学校の授業で学んだことや取組，実践報告などをテレビ電話で発表する。

８　時　間　　１時間目　９時４５分～１０時３５分（オンライン授業）
９時４５分　～９時５０分　　本時の授業の流れの説明
９時５０分　～１０時１５分　グループの発表（発表時間４分，感想記入１分）
１０時１５分～１０時３０分　各グループで意見交換をする
１０時３０分～１０時３５分　全体講評　諸連絡
２時間目　１０時４５分～１１時３５分（各学校裁量）
１０時４５分～１０時５０分　本時の授業の流れの説明
１０時５０分～１１時００分　指定された学校の発表を視聴し，感想を記入
１１時００分～１１時１０分　自分の関心のある学校の発表を視聴する①
１１時１０分～１１時２０分　自分の関心のある学校の発表を視聴する②
１１時２０分～１１時３０分　各学校のロイロノートの提出箱に送る
１１時３０分～１１時３５分　振り返り・まとめ

資料２

グアナファト日本人学校（メキシコ）　2020 年　月　日（　）

私（たち）が考えた課題や問題（テーマの設定①）

メキシコではごみの分別が見られない。

この課題や問題に関わっている SDGS の目標とそう考えた理由（そのテーマを選んだ理由②）

目標の番号	目標のタイトル	関わっていると考えた理由
3	すべての人に健康と福祉を	ゴミが多く、地域が汚いと健康を害するから
11	住み続けられる街づくりを	ゴミを減らして、住み続けられる環境を整えなければならにから
14	海の豊かさを守ろう	ゴミが海に捨てられると、海の豊かさが守られないから
15	陸の豊かさを守ろう	埋立地をこれ以上大きくしないで、陸の豊さを守るから
17	パートナーシップで目標を達成しよう	メキシコと日本で協力して目標を達成するから

私（たち）の住む（国・地域）が上の目標を達成するために取り組んでいること

（現在行われている取り組み④）

- 目標３・・・プラスチックの使用を減らす　グリーンバックを推奨
- 目標 11・・・プラスチックの使用を減らす　グリーンバックを推奨
- 目標 14・・・
- 目標 15・・・プラスチックの使用を減らす　グリーンバックを推奨
- 目標 17・・・